SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs 未来都市

南砺市

SDGsとは

エスディージーズ

SDGs

サステナブル ディベロップメント ゴールズ
Sustainable Development Goals
持続可能な開発目標

SDGsは、2030年までに達成すべき世界共通の目標として、2015年に国連で採択されました。「世界中の誰一人取り残さない」をキーワードとし、貧困、福祉、教育、人権、環境など、様々な分野の目標が設定されています。

「世界の話で私たちには関係ない」と思われるかもしれませんが、17個の目標の中には私たちの生活と密接に関係しているものが多くあります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせよう

2 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、全ての人が一年を通して栄養のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう

3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進しよう

4 質の高い教育をみんなに
全ての人が受けられる公正で質の高い教育の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう

5 ジェンダー平等を実現しよう
男女平等を達成し、全ての女性及び女児の能力の可能性を伸ばそう

6 安全な水とトイレを世界中に
全ての人が安全な水とトイレを利用できるよう衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
全ての人が、安くて安定した持続可能な近代的エネルギーを利用できるようにしよう

8 働きがいも経済成長も
誰も取り残さないで持続可能な経済成長を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある人間らしい仕事に就くことができるようにしよう

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
災害に強いインフラを作り、持続可能な形で産業を発展させイノベーションを推進していこう

10 人や国の不平等をなくそう
国内及び国家間の不平等を見直そう

11 住み続けられるまちづくりを
安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境を実現しよう

12 つくる責任 つかう責任
持続可能な方法で生産し、消費する取り組みを進めていこう

13 気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう

14 海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続可能な形で利用しよう

15 陸の豊かさも守ろう
陸上の生態系や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう

16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発のための平和的で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人が法や制度で守られる社会を構築しよう

17 パートナーシップで目標を達成しよう
目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発にむけて世界のみんなで協力しよう

SDGs副教材『私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～』（外務省・日本ユニセフ協会作成）より引用

持続可能な開発とは

「今」から「未来」へつなぐ

持続可能な開発とは、「今」のことだけでなく、「未来」の人や環境のことを考えて行動し、これからの発展につなげることを意味します。例えば、私たちの財産であるきれいな山や川などの自然環境を守ること、限りある資源を大切に使うこと、昔から伝わる伝統や文化を次世代に引き継ぐことなどは、持続可能な開発に結びつく取り組みのひとつと言えます。

この図はSDGsウエディングケーキモデルと言われるもので、ケーキの土台の部分に「環境」の層があり、その上に「社会」と「経済」の層が重ねられています。これは、経済は社会に、社会は環境に支えられており、経済や社会の発展には豊かな環境が必要不可欠であることを表しています。持続可能な開発を進めるためには、これらの三側面を調和させることが大切です。

ヨハン・ロックストローム氏（ストックホルムレジリエンスセンター所長）が考案したSDGsウエディングケーキモデルを参考に作成

南砺市の取り組み

南砺市がSDGsを推進する理由

南砺市では、年齢や性別、障がいの有無などに関係なく、すべての人が幸せを感じ、安心して暮らせる地域の実現を目指しています。このような地域を実現するためには、「誰一人取り残さない」というキーワードを掲げ、幅広い分野の目標を設定しているSDGsの理念をまちづくりに取り入れることが必要です。

南砺市は2019年度にSDGs未来都市に選定されました

SDGs未来都市とは？

SDGsを達成するための優れた取り組みを提案し、国（内閣府）から選定された自治体のことです。2019年度は全国で31の自治体が選定されました。

南砺市とSDGs

南砺市では、小規模多機能自治の導入や南砺幸せ未来基金の設立、再生可能エネルギーの活用など、従来から持続可能なまちづくりに取り組んできました。これらの取り組みが評価され、2019年７月にSDGs未来都市に選定されました。これを機に、SDGsの理念を取り入れ、経済・社会・環境の３側面の調和がとれた持続可能なまちづくりを今後も推進していきます。

小規模多機能自治や南砺幸せ未来基金、地域包括ケア、エコビレッジ構想などの今まで推し進めてきた取り組みをさらに連携・連動させ、**「世界に誇る一流の田舎」**を目指します。
「世界に誇る一流の田舎」の実現に向けて、人づくり、地域づくり、ものづくりの分野で様々な取り組みが進められています。

人づくり 取り組み例

なんとおせっ会

婚活支援

独身男女に対して、婚活倶楽部なんとへの加入の呼びかけや、出会いイベントに関する情報を提供するなど、独身者の婚活を総合的に支援しています。支援員はおせっ会さんと呼ばれ、婚活支援活動に必要な知識を学ぶための研修会や支援員同士の情報交換を目的とした交流会などに参加し、資質向上に努めています。このような精力的な活動が実を結び、これまでに100組以上のカップルを成婚に導きました。

就業支援（就業継続支援Ｂ型）

共生社会

エルハート城端立野原分場
「自分たちで出来ることは自分たちで行う」をモットーに野菜の栽培を行い、耕作放棄地の発生抑制と地域農業の活性化に貢献しています。農産加工の分野でも専属した作業を行える人材の育成に努めており、障がいがある方の就労をサポートしています。

フレンドハウス福光
商品の値付けなどの仕事を通じて、自立心や働く喜びを味わい、社会参加への意欲を高めるよう活動しています。地域行事への参加、出展も精力的に行っています。

桜ヶ池ネイチャースクール

環境教育

子供たちの社会体験不足が指摘されている中、豊かな自然体験、社会体験の機会を子どもたちに提供しています。年12回の開催で、「里山の山菜を探そう」、「さつま芋の苗を植えよう」「川の中の魚、虫を見つけよう」「さくらやギフチョウを調べよう」など、自然の仕組みや恵みを学ぶとともに多くの友達と仲良く、そして自分で考えて行動する子供たちの育成のために体験学習を企画しています。

JISO LABO（ジソウラボ）

人材育成

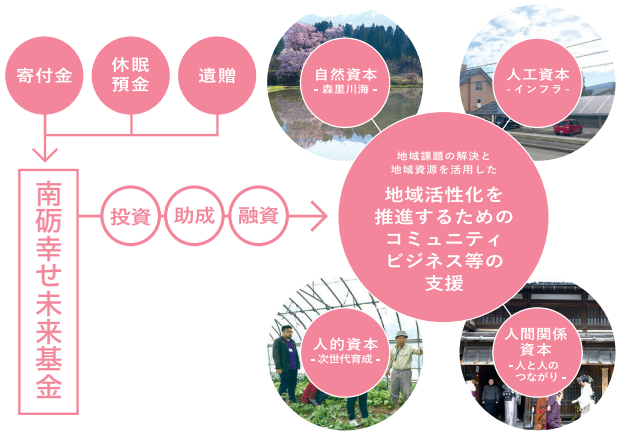
「ジソウラボ」は、業種の垣根を超えた井波地域のメンバーが、立場にとらわれず伝統を未来に継承するため結成した組織です。ビジョンは「人材輩出のまち井波をつくること」であり、持続可能な地域とは、人が育つ地域であると考え、地域の新しい文化の源泉となる人材を地域外から募集し伴走するプロジェクト「BE THE（MASTER）PIECE」を進めています。100年後も文化を継承する人材を生み出すため、メンバーも楽しみながら共に地域を盛り上げています。

地域づくり 取り組み例

3 すべての人に健康と福祉を
8 働きがいも経済成長も
11 住み続けられるまちづくりを
17 パートナーシップで目標を達成しよう

南砺幸せ未来基金

支え合い



地域が抱える課題を解決するための活動や、若者のやる気に満ちあふれる活動など様々な市民活動を資金面から支援することで、地域活性化を図ります。支援は資金面だけでなく、人と人のマッチングなどネットワーク形成にも力を入れ、支え合う地域の実現を目指します。

大鋸屋（おがや）地域づくり協議会

自立

自分たちの地域を維持していくために何ができるかを常に考え、平成28年から毎週火曜、日常型総合生活支援事業／B型ミニデイサービス高齢者サロン「ひらすんま会」を実施しています。
スタッフは有償ボランティアとしてサポートし、相互循環していく仕組みで運用しています。特定の人だけが頑張るのではなく、自分たちが総働で稼いだお金を有効活用して地域を守る仕組みを作っています。また、令和元年７月からは24時間365日受け入れする資源回収ステーションを設置するなど、活動の幅を広げています。

移住・定住支援

移住定住

南砺市では移住・定住を希望される方のために、充実した支援制度を整えています。実際に南砺の家に住み、生活を体験する「なんとに住んでみられ住宅」を用意しているほか、宅地・住宅を購入する方への定住奨励金、民間賃貸住宅に入居する方への家賃補助など、ライフスタイルに応じた新生活のサポートを行っています。また、持ち家率の高い地域の特色を活かした三世代同居も推進しています。

福野家守（やもり）舎

まちづくり

福野家守舎は、福野地域をもっと楽しいまちにしたいと考える有志のメンバーにより結成されました。
「家守」とは江戸時代の長屋の大家さんのことで、町人が自分たちの町を守るために独自に発展させた仕組みにあやかり、福野地域の空き家、遊休地などを活用しながら、福野地域の新しい可能性を見出そうとしています。「自分たちの住みたい、暮らしたいまちづくり」をモットーに、イベントの企画や新しくお店を始める人、空き家と住みたい人のマッチングなども行っています。

ものづくり 取り組み例

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を

森林資源エコシステムの構築

資源循環

森林の整備で出た樹木や間伐材のうち、高品質な資源は家具などの製造にあて、低品質材はペレットや薪に加工して活用するなど、原材料に応じた利活用を行っています。
エコシステムの構築を契機に林業の再生を図るとともに、さらなる森林資源の創出と新規就労の場を産み出し、地域内での経済循環を推進します。
また、ペレットストーブなどの普及を図り、さらなる森林資源の有効活用を目指します。

五箇山和紙の里

伝統産業

五箇山地域では古くから楮（こうぞ）を原料とした和紙づくりが行われてきました。約400年前、加賀藩主・前田利長公へ献上された記録が残っており、現在は「越中和紙」として国の伝統的工芸品に指定されています。全国の文化財補修などに欠かせない紙として知られるほか、強く優美な風合いを生かして、インテリアなどにも幅広く使われています。また最近では、アクセサリーやブックカバーなどデザイン性の高い商品も開発しています。

桜ヶ池バイオマス農業推進協議会

農業

桜ヶ池周辺の農地で、農薬や化学肥料に頼らない持続可能な農業を実践しています。木が発酵する際に発生する発酵熱と二酸化炭素を利用して農作物を栽培するなど、人や環境にやさしい農法の模索を続けています。現在は、地力を高める堆肥の製造に力を入れており、安全安心でおいしい農作物を生産するために様々な取り組みを進めています。

城端絹織物

伝統産業

戦国時代末期から400年以上の歴史を誇る城端地域の絹織物。かつて五箇山地域からもたらされた繭を製糸して織られた絹は、加賀絹として京都や大阪などへ運ばれ珍重されました。現在も城端は絹織物の特産地として知られ、「じょうはな織館」では、絹織物の手織り体験ができ、オリジナル手織り商品なども販売しています。また最近では、地元企業によるタオルやメガネ拭きなどの新商品開発も行っています。

未来の南砺市のために 私たちができること

2030年を見据えて今できることを考えよう

身近なことから
やってみよう！

家の中でできること

5 ジェンダー平等を実現しよう　6 安全な水とトイレを世界中に　7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに　12 つくる責任 つかう責任

- 家事や子育ての分担について話し合おう
- 水を出しっぱなしにしないようにしよう
- トイレの水を流すときは大小のレバーを使い分けよう
- 日頃から節電を心がけよう
- 太陽光や木質資源などの再生可能エネルギーを活用しよう
- 食べ残しや作り過ぎを減らし、食品ロスをなくそう

家の外でできること

2 飢餓をゼロに　3 すべての人に健康と福祉を　13 気候変動に具体的な対策を　14 海の豊かさを守ろう　15 陸の豊かさも守ろう

- 地元の農産物を購入しよう
- 健康診断や予防接種を受けよう
- 鉄道やバスなど、公共交通機関で移動しよう
- プラスチック製品の使用を控えよう
- マイバックを使おう
- 資源回収を実施しよう

職場・学校でできること

1 貧困をなくそう　8 働きがいも経済成長も　9 産業と技術革新の基盤をつくろう　16 平和と公正をすべての人に

- 貧困の現状や原因について学ぼう
- 働き方改革を実践しよう
- 友だちや同僚と仲良くしよう
- 開発途上国への支援について学ぼう
- 新しい技術について調べよう
- 世界でどんなことが起きているか調べよう

地域でできること

4 質の高い教育をみんなに　10 人や国の不平等をなくそう　11 住み続けられるまちづくりを　17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 地域社会で学ぶ機会を増やそう
- お互いを認め、相手を大切にする気持ちを持とう
- 差別的な慣行をなくそう
- 災害時などに助け合えるよう、住民間の絆を深めよう
- 子ども会や自治会活動などに参加してみよう
- SDGsの達成に向けたイベントなどに、積極的に参加しよう

お問合せ
南砺市エコビレッジ推進課
TEL 0763-23-2050
E-mail ecovillageka@city.nanto.lg.jp

PRINTED WITH SOYINK
R70 古紙配合率70%再生紙使用